

目 次

はじめに
略語一覧

序 章 社会科学のなかの国際政治学 1

- 1 社会科学のなかの国際政治学 1
- 2 国際関係論と政治学 3
- 3 本書の構成 4

第 I 部 構造分析：国際政治と主権国家体制

第 1 章 ウェストファリア体制と主権国家体制 7

- 1 30年戦争とウェストファリア講和会議 7
- 2 ウェストファリア体制と神聖ローマ帝国 8
- 3 ウェストファリア体制の 3 つの特徴 9
- 4 主権国家体制から国民国家体制へ 11
- 5 ウェストファリア体制としての国際政治 14
 ウェストファリア体制のモデル ウェストファリア体制と主権 ウェスト
 ファリア体制と国民(ネイション) ウェストファリア体制と領域
- 6 ウェストファリア体制の拡大—西欧国家体系から西欧国際体系へ 18

第 2 章 勢力均衡と集団安全保障 20

- 1 国家理性(レゾン・デタ) 20
- 2 勢力均衡の諸事例 21
 勢力均衡政策の前提—初期のウェストファリア体制 勢力均衡政策の展開
- 3 勢力均衡政策 24
- 4 勢力均衡政策の欠点 26
 国力の把握方法 大国主導の政策 植民地体制への潮流 第一次世界大

戦

5 集団安全保障 …… 29

第3章 帝国主義とイギリス外交の諸相 …… 31

1 グローバリゼーションの3つの波 …… 31

2 帝国主義現象 …… 32

帝国と帝国主義 帝国主義現象が生じた諸要因 帝国主義をめぐる諸研究
帝国主義と国際政治

3 イギリス外交の諸相 …… 35

イギリスの仕組み ヘンリー8世と宗教改革 ヴィクトリア時代 宥和
政策 イギリスと冷戦

第4章 冷戦論の特徴 …… 42

1 冷戦と時期区分 …… 42

2 「準双極体系」としての冷戦 …… 43

3 冷戦とイデオロギー …… 44

4 非同盟諸国と南北問題 …… 45

5 冷戦とテクノロジー …… 46

6 冷戦の「中心—周辺」 …… 48

7 諜報機関 …… 49

第5章 国際政治の諸理論 …… 51

1 国際政治理論の研究傾向 …… 51

2 覇権論 …… 52

3 世界システム論 …… 53

4 地政学 …… 54

5 相互依存論 …… 55

6 機能主義と交流主義—地域統合論 …… 56

7 国際関係論に関わる諸理論—理想主義と現実主義の視点から …… 58

第Ⅱ部 歴史分析：ヨーロッパ政治外交の歴史

第6章	第一次世界大戦からヴェルサイユ体制へ	63
1	第一次世界大戦と国際政治	63
2	第一次世界大戦と帝国	66
3	ヴェルサイユ体制	67
4	ヴェルサイユ体制とヴァイマル共和国	69
5	世界恐慌とナチスの台頭	71
第7章	国際政治と社会主義：ロシア革命とソ連	75
1	国際政治と社会主義	75
2	ロシア革命	76
	ロシアの近代化と第1次革命　第一次世界大戦と「2月革命」　レーニン と「10月革命」	
3	革命と反革命	80
4	コミンテルンと「革命の輸出」	81
5	ソ連の経済(1918～1932年)―戦時共産主義、新経済政策、そして「5カ年計画」へ	83
6	粛清と統制	84
第8章	第二次世界大戦とドイツ外交の諸相	86
1	ドイツ外交の諸相	86
	ドイツ国民国家の政治体制　ドイツの近代化の道	
2	ナチズムの特徴	89
	国家主義と社会主義　人種主義　生存圏　恐怖政治	
3	ナチス・ドイツと侵略主義	93
	ドイツ外交と宥和政策　独ソ不可侵条約	
4	第二次世界大戦	97
	緒戦の攻防　独ソ戦　松岡洋右と日本外交―「四国協商」構想　国際共 産主義とゾルゲ　「ヨーロッパの戦争」と「アジアの戦争」	

第9章 「冷戦の起源」と国際政治	104
1 第二次世界大戦と冷戦	104
2 冷戦史研究の動向—冷戦の終焉と冷戦史研究	105
3 国際政治の展開(1945~1955年)	107
ヨーロッパにおける冷戦の激化 ヤルタ会談から第二次世界大戦の終結へ	
「大同盟」から冷戦へ マーシャル・プラン 冷戦への多様な道 「戦争」	
と「冷戦」—日独比較 ベルリン封鎖(第一次ベルリン危機)	
第10章 冷戦のなかの「西欧」と「東欧」	120
1 西欧社会とヨーロッパ統合—「不戦共同体」の創設	120
2 東欧社会とスターリン主義	124
3 「ベルリンの壁」の建設	126
4 核戦略と冷戦	131
5 デタントと新冷戦の展開	133
デタント 新冷戦	
第11章 冷戦の終焉と「ベルリンの壁」の崩壊	137
1 「1989年」	137
2 ソ連の衰退	137
3 ベレストロイカ	139
4 東欧革命(1989年)	140
5 「ベルリンの壁」の崩壊と東西ドイツの統一	143

第Ⅲ部 情勢分析：ヨーロッパ政治外交の潮流

第12章 冷戦後のドイツ政治外交の展開	149
1 旧東ドイツ地域とオスタルギー	149
「統一」と「統合」 東西ドイツの統一と「ヨーロッパのなかのドイツ」	
「内的統一」とヨーロッパ統合—旧東ドイツ地域とオスタルギー	
2 シュレーダー政権と「新しい中道」	154
3 ネイション(国民)概念の問い直し	157

シュレーダー政権と国籍法改正問題 国籍法改正前史 新国籍法の概要
 SPDと国籍法改正 国籍法改正をめぐる「保守」と「革新」の立場 国
 籍法の改正過程と国籍選択モデル

4 シュレーダー政権からメルケル政権へ 164

第13章 ユーゴスラヴィアと内戦 168

1 旧ユーゴスラヴィアの構造 168

2 74年憲法体制 170

3 ユーゴスラヴィアの解体—クロアチア内戦 172

4 コソヴォ紛争 176

アルバニア人とセルビア人 冷戦の終焉と新戦略概念—ドイツとNATO
 シュレーダー政権とシビリアン・パワー

第14章 「9.11テロ」とアメリカ外交の諸相 182

1 アメリカと冷戦後世界 182

2 クリントン政権(民主党) 183

3 ブッシュ政権と「9.11テロ」 184

4 アメリカ外交とイラク戦争—ユニラテラリズム 186

5 リーマン・ショック 188

6 オバマ政権と「イスラム国」の台頭 189

7 トランプ政権と「1946年世代」 191

第15章 ヨーロッパ統合の「深化」と「拡大」 193

1 「ヨーロッパ」(Europe)とは? 193

2 ヨーロッパ統合と「深化」 194

「深化」と「拡大」 「深化」の過程

3 ヨーロッパ統合と「拡大」 199

「拡大」の過程 第五次拡大 「拡大」の行方

4 フランス外交の諸相 203

第五共和制とド=ゴール 国民戦線とポピュリズム

5 ユーロ危機 209

「危機」の連鎖 ギリシャ金融危機

終章 国際政治学の課題 215

- 1 ウェストファリア体制の「深化」と「拡大」 215
- 2 国際政治の特徴 216
- 3 国際政治学の新しい課題 216

参考文献 219

人名索引 223

◀ 図表一覧 ▶

第1章

図1-1 1815年のヨーロッパ 13

図1-2 ウェストファリア体制の概要
15

図1-3 近代国家と主権 16

第2章

表2-1 「主権国家」による諸戦争の特徴
21

図2-1 勢力均衡政策の分析(1) 25

図2-2 勢力均衡政策の分析(2) 25

図2-3 勢力均衡政策の展開と課題 29

図2-4 集団安全保障の概要(1) 30

図2-5 集団安全保障の概要(2) 30

第3章

図3-1 グローバリゼーションの3つの波
32

図3-2 チャーチルの「3つの環」 40

第4章

図4-1 冷戦の対立軸 45

第5章

図5-1 機能主義と新機能主義 57

第6章

図6-1 第一次世界大戦後のヨーロッパ
68

表6-1 ヴァイマル期国会選挙動向(議席
数) 72

第7章

表7-1 社会主義とインターナショナリス
ム 82

第8章

図8-1 ポーランド併合と強制収容所
91

第9章

図9-1 1945年後に分割されたドイツ 110

第10章

図10-1 「ベルリンの壁」の建設 127

第11章

図11-1 1980年代のヨーロッパ 142

第12章

表12-1 旧東ドイツ地域の出生者数 153

表12-2 西欧諸国の中道左派政権(1990年代
後半) 156

表12-3 ドイツ連邦議会選挙(議席数)
166

第13章

図13-1 ユーゴスラヴィア：74年憲法体制
171

第15章

図15-1 ヨーロッパの東西断層線 194

図15-2 EUの機構 196

表15-1 EUの主要な基本条約 198

表15-2 ヨーロッパ統合の「拡大」過程と特
徴 199